



YMCA Daycare を視察して

埼玉県 愛泉寮 藤本幸子

施設概要

世界120カ国以上にあるYMCAで、YMCA モントリオールは北米で最初に1851年に開設された。【強い子ども・強い家族・そして強いコミュニティー】を育てることを目標にし、YMCAはカナダと共に成長してきた。より多くの女性労働者が増え出した1960年代に入り、YMCAは1968年にデイケアプログラムを開始、1972年にYMCA 幼児教育（プレスクール）を開始し、そして今日YMCAはカナダでの非営利的デイケアの最も大きいプロバイダーにまで成長した。YMCA ダウンタウンのデイケアは国際色豊かなデイケアで地元の方を始め、世界各国からモントリオールにこられている方々の18か月～5歳児までのお子様を受け入れている。クラスは4クラスに分けられ、YMCA ダウンタウンの建物内にプレグラウンド、スイミングプール、体育館などがあり、デイケアプログラム以外にも語学学校、フィットネスクラブもあり、モントリオールで暮らす多くの人たちへの幅広いサービスを提供している。

日本との比較

保育所という位置づけだが、早期教育を取り入れていることもあり、福祉現場より教育現場という感じを受けた。カリキュラムもはっきりしており、時間での流れの正確さを感じた。その中でもこどもたちのディスカッションのようなものがあると聞いたが、年齢相応のものとは思われるが驚いた。また、

市街地に立地していたということもあり、屋上を利用した遊び場があった。日本では園庭に遊具があり、砂場があり、花壇や木々が植えてあるものも多く見られるので違いを感じた。保護者への手紙は、家庭に配布しても読まないことが多いので、配布をやめ園での掲示のみとしていた。保護者との会話の中で報告・連絡をしっかりと行っているとの事だった。

所見

自分の思い描いていた保育所と違っていた。家庭とのつながり方については、手紙を配布しないと徹底しており、その分保護者とのやり取りを日常的に行っていたり、掲示物に工夫をしていたりしていた。確かに、手紙については読まない保護者が多いとは思いますが、手紙を渡した上での声掛けが大事だと思っていたのでそれには驚いた。また、お昼寝の際使う簡易ベッドを見たとき違和感を感じた。日本が布団を使っているからだと思うが、子どもたちは良く眠れるのか気になった。もちろん子どもたちが安心して眠れるよう工夫はしていると言っていた。その国々の大切にしているものの違いが見えてきた気がした。

子ども・親、それぞれ求めているものがあり、それを理解した上で日々のケアや運営を見直していかなくてはいけないと改めて感じた。子どもにとって過ごしやすい場所を提供することにおいては、国を問わず必要なことなので、自分もさらに努力していこうと思った。



掲示物の工夫



明るくカラフルな教室内



屋上にある園庭